

様式1 (視察用)

## 会派行政視察報告書

平成28年度会派 明誠クラブ の行政視察研修を、平成29年1月17日(火)から1月19日(木)までの2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

平成29年1月31日

名取市議会議長 郷内良治様

会派名 明誠クラブ  
代表 山口 實



### 記

- 1 期 日 平成29年1月17日(火)～1月19日(木)
- 2 参加人員 4名 (氏名) 山口 實  
佐藤正博  
大久保主計  
小野泰弘
- 3 視察先 (1) 愛媛県今治市役所  
(2) 愛媛県伊方町役場  
(3) 愛媛県松山市役所
- 4 行程表 別紙のとおり
- 5 調査事項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり



## 明誠クラブ 会派行政視察行程表

期 間	平成 2 9 年 1 月 1 7 日 ~ 1 9 日
参 加 者	山口 實、 佐藤正博、 小野泰弘、 大久保主計
<p>全体の行程 (使用する交通機関及び宿 泊地等) ※行程表添付可</p>	<p>○1月17日(火) 仙台空港=広島空港=(しまなみ海道)= 今治市役所(視察1)=今治市内(今治ア ーバンホテル新館泊)</p> <p>○1月18日(水) 今治市=伊方町役場(視察2/名取集落) =八幡浜市内(八幡浜センチュリーホテル イトー泊)</p> <p>○1月19日(木) 八幡浜駅=松山駅=松山市役所(視察3) =松山駅=松山空港=伊丹空港=仙台空港</p>

視 察 及 び 研 修 の 詳 細	視察先及び研修名	<p>[視察1]</p> <p>○愛媛県今治市</p> <p>「いまばりサイクルシティ構想」について</p>
	日 時 (1日目 視察1)	<p>平成29年1月17日(火)</p> <p>午後1時45分～午後3時15分</p>
	視 察 項 目 (研修の場合記入不要)	<p>○愛媛県今治市役所</p> <p>「いまばりサイクルシティ構想」について</p>
	具体的な調査事項 (研修の場合記入不要)	<p>・名取駅、美田園駅への自転車ネットワーク計画策定や、みちのく潮風トレイルと復興予定のサイクルスポーツセンターの連携や活用など、名取市における新たなサイクル（自転車）活用策について考察する先行事例として研修する。</p> <p>①事業の背景</p> <p>②事業の内容と成果</p> <p>③課題と今後の展望</p>
	その他 (参考とした資料等)	<p>・キーワード 自転車ネットワーク、みちのく潮風トレイル、サイクルスポーツセンター、健康、サイクルシティー</p> <p>・内閣府地方創生推進事務局地域再生計画「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画  <a href="http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai39nintei/plan/a587.pdf">http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai39nintei/plan/a587.pdf</a></p> <p>・公益財団法人東京市町村自治調査会 平成27年3月(2015.3.31)自転車とまちづくりに関する調査研究報告書  <a href="https://www.tama100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/468/4.pdf">https://www.tama100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/468/4.pdf</a></p>

	<p>視察先及び研修名</p>	<p>[視察2] ○愛媛県伊方町 「佐田岬しあわせプロジェクトによる町づくり型</p>
	<p>日 時 (2日目 視察2)</p>	<p>平成29年1月18日(水) 午後1時～午後4時</p>
	<p>視 察 項 目 (研修の場合記入不要)</p>	<p>○愛媛県伊方町 「佐田岬しあわせプロジェクトによる町づくり型 観光による雇用促進事業」について</p>
	<p>具体的な調査事項 (研修の場合記入不要)</p>	<p>・地方創生「まち・ひと・しごと」を活用した当該事業における住民と協働のまちづくりを学び、名取市における観光事業を考察する。また、歴史的に関係のある名取集落の調査を行い、今後の取り組みの可能性を考察する資料とする。 ①事業の背景 ②事業の内容と成果 ③課題と今後の展望</p>
	<p>その他 (参考とした資料等)</p>	<p>・キーワード 佐田岬灯台、風の丘パーク、亀ヶ池温泉、佐田岬メロディーラインサイクリングパラダイス、佐田岬観光まちづくり計画 ・愛媛県先進事例研究会 平成27年度事例紹介資料 <a href="https://www.pref.ehime.jp/h10800/senshinjirei/documents/1-24.pdf">https://www.pref.ehime.jp/h10800/senshinjirei/documents/1-24.pdf</a> ・伊方町の紹介「観光まちづくり計画」 <a href="http://www.himegin.co.jp/furusato/pdf/hi277/hi277_1.pdf">http://www.himegin.co.jp/furusato/pdf/hi277/hi277_1.pdf</a> ・愛媛県「町会報えひめ」 伊方町町議会議長吉谷友一氏「住民と協働のまちづくりを目指して」 「観光交流拠点施設 佐田岬はなはな がオープン」 <a href="http://ecsk.jp/chouson/documents/74.pdf">http://ecsk.jp/chouson/documents/74.pdf</a></p>

<p>視察先及び研修名</p>	<p>[視察3] ○愛媛県松山市 「坂の上の雲」まちづくり について</p>
<p>日 時 (3日目 視察3)</p>	<p>平成29年1月19日(木) 午前9時30分～午前11時</p>
<p>視 察 項 目 (研修の場合記入不要)</p>	<p>○愛媛県松山市役所 「坂の上の雲まちづくり」について</p>
<p>具体的な調査事項 (研修の場合記入不要)</p>	<p>・単に新しいものを作るだけではなく、地域で古くから培ってきた既存の地域資源を最大限活用し、主人公たちのように夢や希望を持ち、官民一体で「物語」が感じられるまちづくりに取り組む、全国ではじめての「小説を活かしたまちづくり」、それを進める「ワールドミュージアム構想」を学び、地域資源を生かした、まちづくり、魅力発信について考察する。</p> <p>①事業の背景 ②事業の内容と成果 ③課題と今後の展望</p>
<p>その他 (参考とした資料等)</p>	<p>・キーワード 屋根のない博物館 地域資源 物語 (ストーリー性)</p> <p>・松山市HP「坂の上の雲」まちづくり <a href="https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/sakanoue/sakakumo_machidukuri.html">https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/sakanoue/sakakumo_machidukuri.html</a></p>

# 今治市サイクルシティ構想について

(愛媛県今治市)

山口 實 (記)

## I はじめに

この冬最大の寒波到来の中、広島空港に着陸、「瀬戸内しまなみ海道」を進むにつれ、暖かさが増し日差しに和らかいものさえ感じられる気候であった。

視察地今治市は、タオル・造船産業では他に類がないほど集積化が進んでおり、中でもタオルについては「今治タオル」として名高く全国的に有名である。

特に「しまなみ海道」を活かしたサイクリングやウォーキングなどの体験型観光の拡充・広域化の推進による「まちおこし」施策は学ぶべき点が多く期待し研修をした。

## I 瀬戸内しまなみ海道の歩み

愛媛県今治市、広島県尾道市を9つの橋で結んだ世界有数の海道である。最大の特徴は、瀬戸内海に浮かぶ風光明媚な島々を9本の様々な形状・デザインの橋で結んでおり、自動車だけではなく自転車や歩いても渡ることができることに、その魅力が秘められている。

平成11年に開通した「瀬戸内しまなみ海道」によって今治市と尾道市は橋で結ばれ、両市は県境を挟んでさらに連携・長調しあうようになり交流がますます盛んになり自転車を活用したサイクルシティ構想の推進となった。

- ・平成11年 しまなみ海道開通により、沿線の旧市町村単位でレンタサイクル事業開始
- ・平成12年 広島県側レンタサイクルと相互乗り捨て開始
- ・平成23年 今治市、レンタサイクル事業を体育振興課から観光課へ
- ・平成24年 「自転車で世界をつなぐ」日台交流瀬戸内しまなみ海道サイクリング事業の開催
- ・平成25年 愛媛マルゴト自転車道作戦開始

## I サイクルシティ構想の特徴

自転車の利用目的を通勤・通学・買い物等といった単なる移動手段から、スポーツとして位置づけ老若男女が楽しめる意識の転換を図っているところにポイントが感じられる。

- ・ブルーラインの明示

サイクリングロード推奨ルート上に車道と路側を明示するブルーライン及び距離標示（自転車愛好家の魅力向上）

- ・しまなみサイクルオアシス

サイクリング中に気軽に立ち寄り休憩や地域住民との交流が図れる「おもてなしの場」住民参加型で整備し、空気入れや自転車スタンドを設置（今治市 28 か所 尾道市 70 か所）

- ・自転車の安全な利用の促進に関する条例の制定

運転マナーの悪さが問題となる今日、より身近な問題として捉えていただき意識や運転マナーの向上を図る目的（平成 26 年 7 月制定）

- ・愛媛サイクリングの日

県民の健康と生きがいを育むため県・市町の連携による「チーム愛媛」の取り組みとして自転車関連イベントを県内各地で実施

- ・今治市サイクリングターミナル（宿泊施設）

## I 考察

震災によって壊滅した沿岸部の公共施設の再現は、本市まちづくりの重要な課題である。「沿岸地域活性化振興ビジョン」の中でも、サイクルスポーツセンターを含めたサイクルロードはまちおこしの起爆剤として計画され、実施に向け英知を結集しているところである。サイクルシティに取り組む先進地である愛媛県今治市の実態を見聞し参考にしたい。

構想の推進に当たっては、平成 11 年「瀬戸内しまなみ海道」の開通や観光資源の豊かさだけでこの計画が推進できたものではない、この言葉が印象的であった。・・・言葉の裏には官民一体となって取り組む姿勢、目的意識を明確にもつ、加えて県民挙げての一大プロジェクト、このような条件が整い一定の成果を得たのだ・・・そんな言葉が隠れているように感じた。

構想が安定し定着しているのは、利用者優先の発想にあると考える。サイクルオアシスや市内いたるところにサイクルスタンドの設置を行うなど利用者の目線で運営されていることは参考になった。

人口減少が心配される今日の社会、市民の皆さんが「住んでよかった」「住んでみたい」そんなまちづくりのため、今回の研修で得た貴重な知識を今後の市政運営に活かしていきたい。

平成 29 年 1 月 17 日 (火)

愛媛県今治市

170117

今治市議会

議長 渡邊文喜

電話 (0898) 321520  
FAX (0898) 361120

170117

**Imabari**

今治市議会事務局

事務局長 門田 誠五

〒794-8511  
今治市別宮町一丁目4番地1  
TEL 0898-36-1580  
FAX 0898-36-1582

世界のサイクリストの聖地  
瀬戸内しまなみ海道

サイクリングは「KEEP LEFT」&「SHARE THE ROAD」が合言葉!



170117 JAPAN 今治

今治市 産業部 観光課

サイクルシティ係長  
二宮 一成  
Ninomiya Takanori

〒794-8511  
愛媛県今治市別宮町一丁目4番地1  
TEL 0898-36-1541  
FAX 0898-25-2961  
URL <http://www.city.imabari.ehime.jp/>  
E-mail: i2012@imabari-city.jp

170117

**Imabari**

今治市役所  
産業部 観光課  
サイクルシティ推進室

課長補佐 渡部 誠也

〒794-8511  
今治市別宮町一丁目4番地1  
TEL 0898-36-1541

世界のサイクリストの聖地  
瀬戸内しまなみ海道

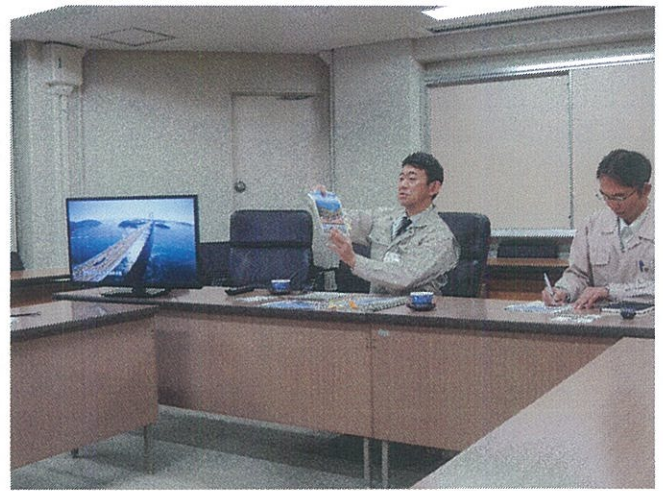
サイクリングは「KEEP LEFT」&「SHARE THE ROAD」が合言葉!



今治市議会議長 渡邊氏のあいさつ



担当課長補佐 渡部氏の説明





## 佐田岬観光まちづくり基盤整備事業

(佐田岬しあわせプロジェクト)

記録 大久保主計

**概要** 伊方町では、新たな産業の創造、雇用の創出、観光資源の有効活用等、町の特性に応じた地域資源を活用したまちづくりへの取り組みが必要であり、観光振興のための各種取り組み等について、平成 25 年度「佐多岬観光まちづくり実施計画」を策定、佐田岬灯台をはじめ亀ヶ池温泉や道の駅等各観光施設の磨き上げや有効活用を図るための事業展開のための基盤整備を平成 26 年度から当該事業を実施し、成果を上げている。

### 1.事業の背景

伊方町は、平成 17 年 4 月 1 日に三崎町、伊方町、瀬戸町が合併し、面積は 93.98 m<sup>2</sup> で、人口は 9,917 人。合併時と比べ 24%減となり、高齢化率は 43.9%(名取市 20.9%)で、人口減少、少子高齢化が進んでいる。柑橘類の栽培等 1 次産業が主体であり、観光への認識が乏しい。フェリー利用客 40~50 万人/年や、伊方原発 P R 館 6 万人/年に着目して、交流人口の拡大を図り、佐田岬に暮らす人、佐田岬を訪れる人の両方が幸せになれる観光の仕組みづくりを住民と一緒に考え実践している。集客事業や物販事業などを新たな地域産業として根付かせ、雇用促進や生きがい創出など、地域のしあわせを創る「佐田岬しあわせプロジェクト」と称している。

### 2.事業内容と成果

(1)灯台 100 年記念ビジネスプランコンテスト 平成 29 年に初点灯から 100 年目を迎える佐田岬灯台を観光資源として活用するビジネスプランを平成 26 年度に募集した。応募 6 件、採用 4 件 (BBQ&カフェ、クルージング、マリンスポーツ、水上サイクリング)。今後実施に向けて、実施組織の法人化を行い、具体的に取り組む予定。

(2)サイクリングコースブラッシュアップ 隣接の八幡浜市と「佐田岬広域観光推進協議会」を設置しており、この協議会において町内 6 コースをサイクリングコースとして設定し、このコースの魅力向上を図るためサイクリングマップの整備、P R 動画の作成、サイクリスト等の休息所として賛同事業所を「佐田岬旅オアシス」と認定しベンチ等の整備を実施した。



～サイクリングコースは、ブルーラインが引かれ、サイクリストを案内する。～

### (3) 新たな旅行商品の開発

地域の人と参加者が継続的な交流を目指す「ソーシャルツアー（社会貢献型ツアー）」は、受け入れ実績5団体64名が、奉仕作業、水上サイクリング体験を行った。また、観光の要素に健康、医療を組み合わせ、愛媛大学と連携した「ヘルスツーリズム」については、亀ヶ池温泉を經典とせ健康プログラムや、休耕地を活用した薬用植物栽培の検討などに取り組んでいる。



～伊方原子力発電所～

### (4) 観光施設のブラッシュアップ

- ①観光物産センター道の駅 伊方きらら館
- ・電源立地地域交付金
  - ・老朽施設を全面改修、愛媛県が推進している「サイクルオアシス」を設置。



～1Fのサイクルオアシス～



### ②健康交流施設 亀ヶ池温泉

- ・従前施設に宿泊施設を新たに整備
- ・平成26年整備 平成27年供用開始
- ・年間20万人弱の利用者



～きらら館は、伊方原発PR館に隣接しており、道の駅でもある。～



～1500m掘削して41度の温泉が出た。現在は指定管理で運営されている。～



～地域の特色を生かした「みかん湯」～



～ふえりーふとうに隣接する。～



～サイクル施設があちこちにある。～

### ③観光交流拠点施設 佐田岬はなはな

- ・合併特例債
- ・平成 26 年整備 平成 27 年供用開始
- ・年間 40 万人が利用する「国道九四フェリー」乗り場隣接地に観光案内所、直売所等を整備。



### ④佐田岬灯台公園

- ・自然環境整備交付金、過疎債
- ・平成 27 年度から改良工事、平成 29 年度の灯台 100 年目から供用開始予定。
- ・遊歩道更新、新展望台設置、戦争遺産等整備

### (5) その他

当該事業及び町内観光事業の中心となる「NPO法人佐田岬ツーリズム協会」の組織強化を図る取り組みを進めている。

### 3.現地調査

伊方町議会事務局のご厚意で、佐田岬しあわせプロジェクトの現地調査を行なうことができ、各施設のにぎわいや立地環境等を直に体感できたことに感謝したい。

各施設は、多くが平成 26 年から整備され、平成 27 年度から供用開始で、全ての施設が指定管理で運営されている。施設では、地元の特産品が販売され、地元の雇用拡大が図られている。当該プロジェクトの目的でもある、そこで暮らす人と訪れる人の両方がしあわせになる目的が、しっかりととりくまれていることが実感できた。

#### 4. 考察

少子高齢化、人口流失による過疎化等の課題を抱える中、「土地で暮らす人」と「土地を訪れる人」の両方がしあわせになれることをしっかりと目標にした「佐田岬しあわせプロジェクト」は、平成26年から平成28年の3か年という短い期間で、その基盤整備が着実に実行され、交流人口が増えていくことから、当該事業は所期の目的を果たしたと高く評価できる。

交通の便が悪いという地理的条件や、地元住民の観光事業への関心の低さなどのハンディを抱えながら、地元の良さをブラッシュアップし、雇用を作り出し、まちづくりに取り組んできた関係者の努力は、今後もネットワークの拡大と、新たな人材の育成を期待できるものである。この事業は、私たちの地域においても、事業に取り組む立ち位置や考え方など、基本的な考え方や、それを具現化していく多くの事例を考察する機会となり、大変有意義な研修視察となった。

#### 5. その他

現地調査の途中、これも伊方町のご配慮で、伊方町にある「名取地区」にも立ち寄り、関係者と交流が実現した。



名取という地名の由来は、約400年前の

「慶弔20年(1615)宇和島藩主伊達秀宗が入国の際に同行した軍夫が、軍馬の飼育と警固のために当地に定住し、軍夫らが仙台藩領の名取郷の出身であったことによる(仙台保春院記録/神松名村郷土誌)」とされている。



名取市議会においては、2006.12.14平成18年度第6回定例会の一般質問において、故高橋史光議員が「今後の交流のあり方等」を取り上げており、市長は、「機会をとらえて～取り組みを考えたい」と答弁している。



今回は、名取地区の伊方町議会副議長小林絹久氏、郷土史に詳しい木村公志氏が、名取集会所で迎えていただき、名取の歴史や震災時の支援、その後の交流などのお話を聞くことができた。詳細は別紙参照のこと。

参考資料：別添のとおり

平成 29 年 1 月 18 日 (水)

愛媛県伊方町



170118



佐田岬半島

愛媛県伊方町議会

副議長 小林 絹久

〒796-0301  
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1993番地1  
TEL(0894)38-0211代



170118



佐田岬灯台

事務局長 菊池 嘉起

伊方町議会事務局

〒796-0301 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1993-1  
電話(0894)38-2662 FAX(0894)38-0020  
E-mail:y.kikuchi@town.ikata.ehime.jp



170118



愛媛県伊方町  
産業建設課



課付課長  
兼観光商工室長

兵頭 達也

〒796-0301  
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1993番地1  
TEL (0894)38-0211  
FAX (0894)38-1373  
E-mail:t.hyodo@town.ikata.ehime.jp



170118



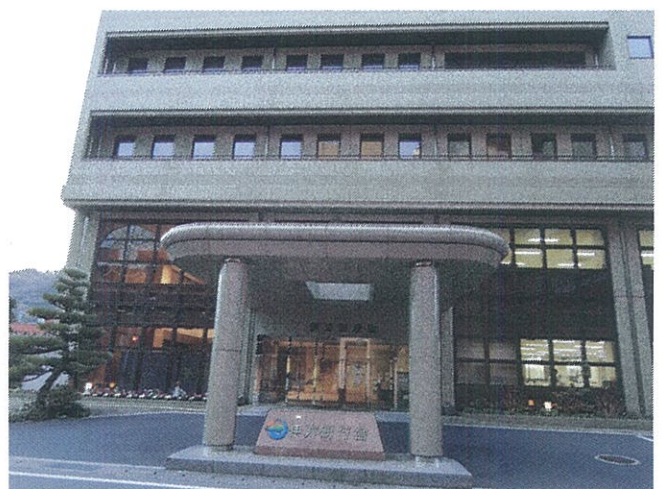
木村 公志

〒796-0816 愛媛県西宇和郡伊方町名取16  
TEL 0894-54-0216  
E-mail:rkkimura@md.pikara.ne.jp

伊方町議会事務局長 菊池氏の説明



伊方町役場庁舎



# 『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

## (愛媛県松山市)

小野泰弘

『坂の上の雲』のまちづくりは、小説『坂の上の雲』の3人の主人公の高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れたものである。単に新しいものを作るだけでなく、地域で古くから培ってきた、既存の地域資源を最大限活用し、主人公たちのように夢や希望を持ちながら、官民一体となって「物語」を感じられるまちづくりに取り組む「小説を活かしたまちづくり」でもある。

### 1. 事業に至った経緯

司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』は、近代俳句の革新に力を注いだ正岡子規、日露戦争で活躍した秋山好古・真之兄弟の人生をたどりながら、「近代国家」をめざした明治の日本を描いている[1]。貧しい下級武士の家に生まれながら、高い志とひたむきな努力で夢や希望を追いかけた主人公たちゆかりの地が市内各所に残っている。『坂の上の雲』のまちづくりは、1999年に当時の中村市長が提案したものである。その提案を受けて基本構想策定委員会が組織され、『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり基本構想が策定された(2000年3月)。その中では、すでに『坂の上の雲』フィールドミュージアムが提案されている。この構想が2001年3月には「基本計画」に発展し、フィールドミュージアムづくりは、全国都市再生モデル調査、まちづくり交付金、

地域再生計画等を活用しつつ進められた。

### 2. 事業の概要

#### I フィールドミュージアム構想

『坂の上の雲』のまちづくりを進めるために「フィールドミュージアム構想」を掲げている。これは松山市内に点在する小説ゆかりの地をはじめとした地域資源を一つの作品にたとえ、市内全体を「屋根のない博物館」に見立て、まちの魅力を高めていくものである。松山城を中心とした「センターゾーン」、その周りにそれぞれ地域特性を持った6つの「サブセンターゾーン」、個別の地域資源「サテライト」を市内に設定し、それぞれのゾーンで地域資源の活用、再発見に取り組んでいる(図1)。



図1 フィールドミュージアム構想

1) センターゾーン

交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に松山城（図2）、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡・施設が多く存在する。

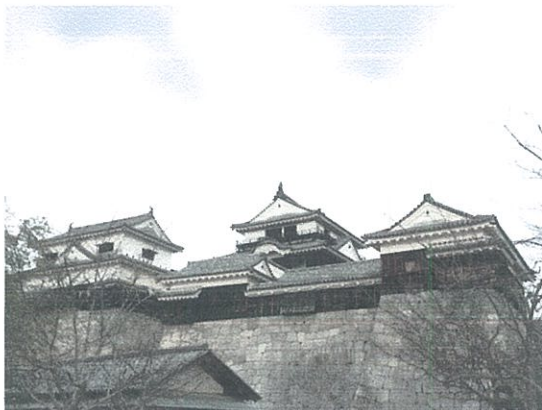


図2 松山城

① 坂の上の雲ミュージアム

建築家・安藤忠雄氏の設計のもと、平成16年12月22日着工、平成18年11月30日に竣工した（図3）。三角形を描くスロープで繋がれた展示室（図4-5）を上がっていくようになっている。

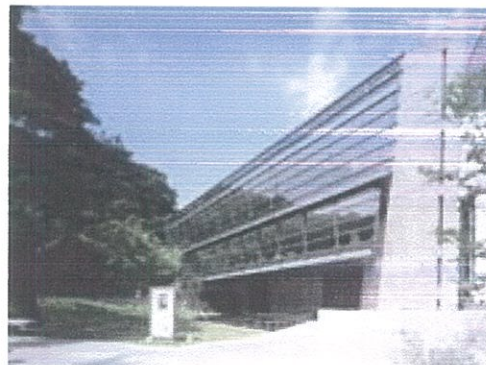


図3 坂の上の雲ミュージアム

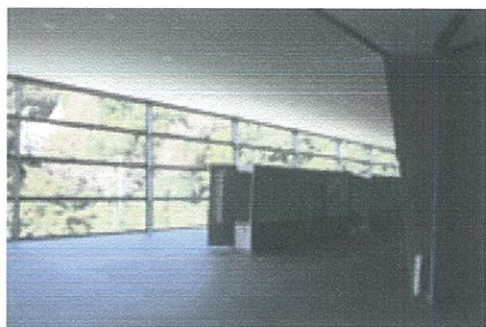


図4 2階ライブラリーラウンジ

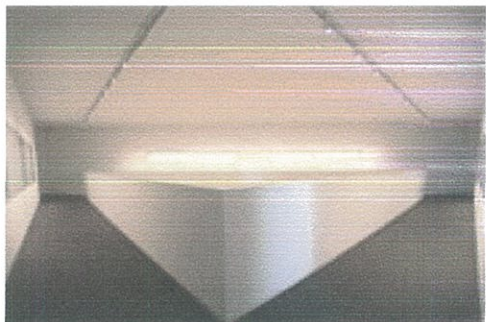


図5 3階企画ギャラリー

② ロープウェイ通り道路景観整備およびファサード整備事業

松山城への玄関・アクセス動線であるロープウェイ通り（市道一番町東雲線）の整備及び商店街のファサード[2]整備が順次行われ、平成18年4月に完了した。この整備は、地元商店街が主体となって、自らの利権を調整・まちづくりの方向性を見出し、歩行者

優先の再配分を伴った景観整備を行ったものである。整備の結果、センターゾーンのシンボリックな通りとしてゆったり観て歩いて楽しい、新しい町並みに再生された(図6)。



図6 ロープウェイ通り

### ③ 城山公園(史跡松山城跡)整備

公園内にあったスポーツ施設の郊外移転にともない、あらゆる世代が集う憩いと安らぎの空間として整備された(図7)。

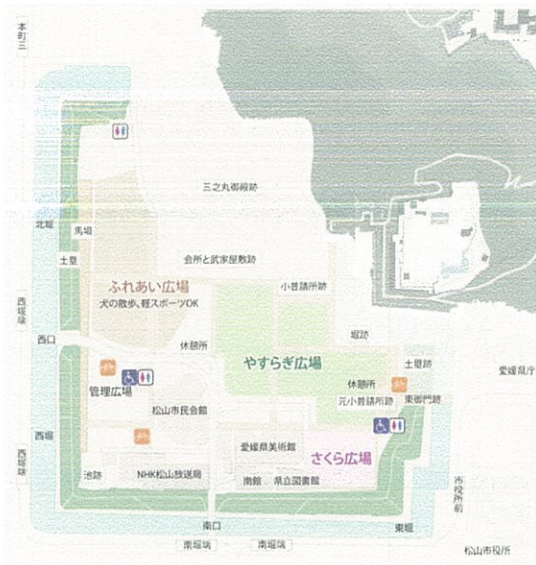


図7 城山公園

### 2) サブセンターゾーン

道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津

寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの地域を設定し、固有の地域資源を活かしたまちづくりを進めている。

### ① 道後温泉周辺道路景観整備事業

本館(図8)周辺の道路を付け替え、車道と歩道を分離した。浴衣でゆっくりそぞろ歩きができるまちに生まれかわった。



図8 道後温泉

### ② 道後温泉周辺ファサード景観整備事業

まちづくり協定書に基づき誇り・品格をテーマにファサード[2]整備を実施し、歴史と温泉情緒が漂う町並みを形成している。からくり時計(図9)の横には、だれでも浸かれる足湯がある。



図9 道後温泉駅前のからくり時計



### 3) サテライト

小説ゆかりの地をはじめとした松山市内各所の地域資源で構成される。センターゾーン、サブセンターゾーンを結ぶ役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高める。

## II 活動支援事業

フィールドミュージアム構想具現化の一つとして、地域資源の利活用に主体的に取り組もうとする NPO や市民団体に対し、市が設置するフィールドミュージアムサポート委員会が支援を行っている。これまで 38 団体の活動を支援してきた。以下に具体例を示す。

#### ① まつやま山頭火倶楽部

種田山頭火[3]終焉の地・一草庵を拠点に、案内人の養成やイベントを実施。

#### ② GCM 庚申クラブ

栗田樗堂[4]が残した庚申庵を拠点に地域の憩いの場づくりに向けた事業を実施。

#### ③ 松山・白石の鼻巨石群調査委員会

謎に包まれた巨石群を調査研究し、調査結果と魅力を広く情報発信。

#### ④ 平成船手組

三津浜地域を博物館と捉え、古い町並みをとグルメを活かした散策イベントを実施。

#### ⑤ 青春亭 お伽座

お国言葉を地域資源と捉え、伊予弁による昔話の実演。

#### ⑥ 松山俳句でまちづくりの会

俳句を活用した回遊型・体験型イベント等の企画・実施。

## III 地域の宝みがきサポート事業

まちづくり協議会または公民館が、地域の宝（地域資源）の利活用や情報発信を目

的とした解説板・案内看板・アクセス整備等を行う場合において、その整備費用を補助する事業。整備の必要性の根拠や整備後の維持管理・活用策等について十分検討がなされた地域に対して補助金の支出や助言を行い支援する。補助額は 1 地域につき上限 30 万円、補助率は 10/10。対象となるのは、委託料、工事費、原材料等である。

## 3. 事業の成果

ロープウェイ通り道路景観整備およびファサード[2]整備の後、目に見えた効果が現れている。地方の商業地では稀な、10%以上地価が上昇し、休日の歩行者数が 3.5 倍に増えた。更に、商店街の営業店舗数も 97 店舗から 147 店舗に増えており、通りの賑わいが創出されるとともに、資産価値も上昇し、地域の活性化につながる良い事例となっている。

松山市への観光客数は、しまなみ海道が開通した 1999 年に最多を記録した(609 万人)。しかし、次の年から 2009 年までは 500 万人前後で推移し、2010 年に突然 588 万人に増加した。再び次の年から減少し、2012 年に底を打ち(552 万人)、その後は回復傾向にある。

## 4. 考察

ロープウェイ通りの整備が完了した 2006 年、坂の上の雲ミュージアムが開館した 2007 年の観光客数はそれほど増加していない。しかし、2010

年に突然 588 万人に増加し、2011 年も東日本大震災があつたにもかかわらず 571 万人であつた。これは、NHK で放送されたスペシャルドラマ『坂の上の雲』[5]の視聴率が高く、松山市が広く全国に知られたことが要因であろう。2013 年以降、観光客数が徐々に増加しているのは、『坂の上の雲』の認知度を背景に、東日本大震災からの復興が進んだことによるものと推定される。

参考文献：

- [1] 坂の上の雲 文藝春秋新装版：2004  
年 6 月 15 日刊行 [ISBN](#)  
[4-16-323020-3](#)

[2] 建築物の正面部分（デザイン）。フランス語に由来し、英語の face と同根。最も目に付く場所であり、町並みを形成するもの。

[3] 本名・種田正一(1882-1940)  
戦前日本の俳人。自由律俳句で著名。

[4] 本名・後藤政範(1749-1814)  
江戸時代中期・後期の俳人。松山の酒造家。

[5] 2009 年 11 月 29 日から 2011 年 12 月 25 日まで足掛け 3 年に亘って NHK で放送されたテレビドラマの特別番組。

平成 29 年 1 月 19 日 (木)

愛媛県松山市

170119  
『坂の上の雲』のまち松山  
松山市総合政策部  
坂の上の雲まちづくり担当部長付

主 幹 乗 松 洋 一 郎  
Norimatsu Yoichiro

〒790-8571 愛媛県松山市二番町4丁目7-2  
TEL. 089(948)6996 FAX. 089(934)1804  
E-mail : nori-y@city.matsuyama.ehime.jp



170119  
『坂の上の雲』のまち松山  
松山市総合政策部  
坂の上の雲まちづくり担当部長付

主 査 井 上 純  
Inoue Jun

〒790-8571 愛媛県松山市二番町4丁目7-2  
TEL. 089(948)6996 FAX. 089(934)1804  
E-mail : j-ino@city.matsuyama.ehime.jp



松山市役所（本館）庁舎



議会応接室での説明

